

「誰かのために」から始まるSDGsアクション

SDGs特集 リサイクル × SDGs

第17回

リサイクルとは、もう使わなくなったもの、使えなくなったものを原料にして、形状を変えて再利用すること。「もったいない」という思いに加えて、そこに「誰かのために」という想いをのせて行動に移すことが、「誰一人取り残さない」SDGsアクションの第一歩につながるはず。

使わなくなったクレヨンに
新たな価値を

誰かを想って行動する
心を育みたい

大垣市内で企業主導型保育所を運営する株式会社リリフルでは、所当初から印刷会社で余った紙や繊維会社で出たはぎれなどを譲渡してもらい、普段の保育で活用してきました。そんな中、SDGsが社会に浸透し始め、保育所でも子どもたちと一緒に何か取り組めるものはないかと考えていたところ、スタンプが折れたり小さくなったりしたクレヨンを溶かし、再び固めて使う再生クレヨンに着目。実際に、さまざまな色のクレヨンを混ぜて、フクロウ型の再生クレヨンをつくってみると、保育所で預かる0、2歳の子どもたちにも持ちやすく、角度によつて異なる色を描くおもしろさがあり、子どもたちも大喜びしています。

そこで代表取締役の金森律子さんは、同じように家庭で使わなくなったクレヨンを集めて再生クレヨンを作り、保育所にも廃材を寄付してくれる地元企業と連携し、小さな子どもたちに贈る「マープルクレヨンプロジェクト」をスタート。ショッピングモールや学校などに声をかけ、回収ボックスを設置した結果、予想以上に多くのクレヨンが集まりました。さらに金森さんは、地元の小・中学校やコミュニティセンターで、回収したクレヨンを再生させるワークショップを開催。自らの手でクレヨンを生まれ変わらせる喜びを感じられる、体験型学習を展開しています。



使わなくなったクレヨン1cm角に刻んで型に入れ、レジで溶かして固めた再生クレヨン

ワークショップでは、再生クレヨンを1つは自分用に、残りは小さな子どもたちのプレゼント用として製作参加者は「誰かに渡すことを考えて作るとワクワクする。しかも、捨てるはずだったものが、人に喜んでもらえるものになるのがうれしい」と、目を輝かせながら配色を考え、製作に没頭します。金森さんは「与えられたものではなく、自分でいらなくなったものを持ち寄って、新たな価値を生み出す行動が大切。この体験をきっかけに、「他のものでも何かできないだろうか」と、自分で考えて行動できる心を育みたい」と、未来を築いていく子どもたちの背中を押します。



地域の小・中学校を対象にワークショップを開催

この活動がスタートして以来、地域でも徐々に賛同を得ることができ、回収ボックスの設置場所も、銀行やガソリンスタンドなどの店舗や地域の企業・団体など、約50カ所近くまで増加しました。また今月2月には、大垣市教育委員会へ再生クレヨンとクレヨンを包む地元企業の廃布をセットにして、市内全域の小・中学校1年生約1400人に贈呈。プロジェクトは、地域をあげた取り組みに発展しています。「今後もより多くの地域住民や企業と連携し、地域の子どもたちに還元できるSDGsアクションのモデルケースとして、広く発信できれば」と、さらなる意欲を見せる金森さん。福を呼ぶといわれるフクロウをかたどったカラフルなクレヨンが、次世代の地域を担う子どもたちに、笑顔をもたらしてくれそうです。

地域企業の協力で
さらに広がる輪

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

SDGsとは、持続可能な開発に向けて、2015年9月の国連サミットで採択された世界共通の目標で、17のゴールとその達成に向けた具体的な169のターゲットが示されています。岐阜県は2020年に、SDGs達成に向けて優れた取り組みをする「SDGs未来都市」に選定されました。



(株)リリフルの
金森律子代表取締役

クレヨン回収ボックスを
大垣市内の各地に設置

OKB 大垣共立銀行

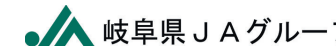
一生涯のパートナー

第一生命

Dai-ichi Life Group



長谷虎紡績株式会社



ここにとどく
花キューピット 岐阜支部



リード[li:d]進学塾 予備校

JUROKU Financial Group



私たちは持続可能な開発目標
SDGsを支援しています。

プロジェクト特設サイトオープン

最新事例を紹介

支援している企業の
取り組み情報や活動事例の
紹介はこちらから



取り組み企業、事例について
お寄せください。

SDGs岐阜推進プロジェクト事務局
中日アド企画 岐阜支社内
岐阜市柳ヶ瀬通1-12 岐阜中日ビル7階
TEL.058-265-6281